

最高裁秘書第3452号

令和4年12月12日

林弘法律事務所

弁護士 山中理司 様

最高裁判所事務総長 堀田 眞 哉

苦情の申出に係る諮問について（通知）

11月2日付けで東京地方裁判所が下記の司法行政文書を不開示としたことに対する苦情の申出について、本日、情報公開・個人情報保護審査委員会に諮問しましたので、通知します。

記

開示の申出があった司法行政文書の名称等

自由と正義2022年1月号47頁で紹介されている、「22部の歩き方」と題する小雑誌（最新版）

最高裁秘書第3551号

令和4年12月19日

山 中 理 司 様

情報公開・個人情報保護審査委員会

委員長 高 橋 滋

諮問番号等について（通知）

司法行政文書の開示に係る苦情の申出について、諮問を下記のとおり受けたので、通知します。

また、同諮問について、最高裁判所から当委員会に提出された理由説明書の写しを別添のとおり送付します。

記

1 苦情の申出に係る司法行政文書の名称等

自由と正義2022年1月号47頁で紹介されている、「22部の歩き方」と題する小雑誌（最新版）

2 苦情の申出がされた日

令和4年11月11日

3 諮問番号等

(1) 諮問番号

令和4年度（情）諮問第24号

(2) 諮問日

令和4年12月12日

（担当）秘書課文書開示第一係 電話03（4233）5249（直通）

令和4年12月12日

情報公開・個人情報保護審査委員会 御中

最高裁判所事務総長 堀 田 眞 哉

理由説明書

苦情申出人は、東京地方裁判所（以下「原判断庁」という。）がした不開示の判断に対し、本件対象文書は、新任調停官が困らないように日常生活などをQ&Aにまとめた内容である（自由と正義2022年1月号47頁参照）から、裁判事務に関する文書ではない旨主張しているが、下記のとおり当該判断は相当であると考え

記

1 開示申出の内容

自由と正義2022年1月号47頁で紹介されている、「2.2部の歩き方」と題する小雑誌（最新版）

2 原判断庁の判断内容

原判断庁は、1の開示の申出に対し、11月2日付けで不開示の判断（以下「原判断」という。）を行った。

3 最高裁判所の考え方及びその理由

(1) 司法行政文書開示手続の対象となる司法行政文書とは、裁判所の職員が職務上作成し、又は取得した司法行政事務に関する文書、図画及び電磁的記録であって、裁判所の職員が組織的に用いるものとして裁判所が保有しているものであり、裁判事務に関する文書は、司法行政文書には含まれず、司法行政文書開示手続の対象とはならない。

(2) 苦情申出人は、本件対象文書は、新任調停官が困らないように日常生活など

をQ&Aにまとめた内容であるから、裁判事務に関する文書ではない旨主張する。

しかし、苦情申出人が開示を求める文書は、その標題や「自由と正義」2022年1月号の記載内容から、原判断庁民事第22部で新たに任命された民事調停官に対して、裁判事務を行ううえでの留意点が記載された文書であると考えられるところ、新たに任命された民事調停官をサポートするために、裁判事務を行ううえでどのようなことをどのような方法で教示するのかは、専ら当該部に属する裁判官又は民事調停官が判断することであるから、裁判事務に関する文書に該当する。

- (3) なお、前記「自由と正義」2022年1月号には、「裁判官室に通されて、「22部の歩き方」と題する小冊子を渡されました。」との記載があるが、原判断庁が組織として交付した事実はない。
- (4) よって、原判断は相当である。